## 慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	外資輸入に就て
Sub Title	
Author	渋沢, 栄一
Publisher	三田学会
Publication year	1909
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.2, No.2 (1909. 9) ,p.165(43)- 174(52)
JaLC DOI	10.14991/001.19090901-0043
Abstract	
Notes	講演
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19090901-0043

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

のである。

也 p 5 Ţ 指示 7 た 存 当 6

## 講

演

外資輸入に就て

見等 上記写文 一手優應彰望追り

業が世界的に相成つて居るといふ事は申上げる迄 我國は開國以來五十有餘年の歲月を經で段々此商 て居るかも知れませぬけれども日本も何時迄も 迄も即はち敢て盟主と云ふ迄にも至り得られぬ と云かとどうも「否」と云はねばならぬやうに私 近隣の東洋に敷多い割合に資本が充實して居るか ります、 供だと思つて居られぬので又思ひ度くないのであ 考へるのです、 此東洋が歐米と偉い競爭をする域になり得られ らば本國の事業を今日の儘で決して置く譯には ない又幼稚と自身も云ひ或は他國からも云はれ なりながら其仕事が我が本國の若く ども重もな位地を占めやうと思ふな 故に商工業を世界的に進め而して 澁澤榮一君述 は又

英雄は出來る樣には追々仕向けをして行くでもあ 者でも如何に英雄でも矢張り仕事は出來ない能者 事業の進むは人に依るとは云ひますけれども單に 來つたが更に大に進めねばならぬと云か考 には勢ひ智慧を學問も勿論必要でありますから此 して來るのであります、然して是を進めるといふ を補かと云か主義を取る方が好からう、 人間許りでは不可ない俗に申す空拳では如何に能 らうが要するに他の餘りある所を以て足らざる所 事に就ては必要と見て頻りに論じまり 數年前此鐵道の事業に對して資本を入れると云**ふ** 心を用かる人は誰れも皆論じ來つた事であります を入れると云か事に就て 時に或は大分な反對說も生じまして隨分其議論は 經濟界の一つの問題と申す如き有様に相 なつてしまつた即はち鐡道は國有にな ます但し今の 7 いありますし是迄る大に進み 議論は今日では皆十日の菊に つて資本を入れると云ふ 隨分舊くから經濟界に した 尤る外資 成つた事 へを増

游浴

論演

敢て損する處懼るト處は無からう、 0 若しさうするとするならば四億五億の金員は會 に伸び得ると云ふ道理になる、 金で遣る譯には行くものではありませぬけれども ると云ふので卽ち假りに十七會社の鐵道が悉く借 乏しい らしく這入つた資本はモウ 資本が這入れば今度は將來の資本は夫が補つて新 て內外 然どうも此前にも申す通り東洋の仕事には資本が 用にな 居る所は 道國有の行はれぬ前の談である、 は法律は出 資本に依つて我が のものが内を と云ふ所謂借金政略に計り依るのではな し得られ て資本が這入つて來るために我國に取つ の資本を玆に迎へるは所謂或事業に對して りまし 故に適當の事業に對して良い方法に依 只無暗に外國の金を借りさへすれば宜し 一來せし た、デ今申しまするの るから所謂有無相通の道 補つて其補 たけれ 事業の計畫なり又其他の方面 ども實際に於 ばれ 一遍先きに擴張が出來 た資力が 而して此鐵道會 私共の希 ッ は三十九年鐵 7 T 他の事 は殆ど不 安い  $\Diamond$ 5 乍 7

等する際には大なる**不幸** たら如何に日本の會社で創立して居つても外國 の關係からして其權利 は云はれない若し鐵道會社の事業が蹉躓 道に對する權利に大い ある兹で全で外國の資本に據る事になると勢ひ鐵 立る總べて政府は制裁をして許否を定めるもので 普通の事業でない、 れるに於ける吾々の議論であつた、處が是に反對 を與へると云が方法さへ講じてれ 其鑄道會社の權利を侵害するやうな事になつては と云ふのが、 不可ぬ、 し掛念された意見は 論でありました、たと彼等に安心する道を與へん ければならぬ、 界無し一向そんな事は頓着なしで宜からうと云ふ 商賣の原 ふのが 鐵道に對する相當な權利を具へつゝ安心 此鐵道事業に對する外國の資本を入 杞憂者の議論でありまし たい安心する道と云つて限りなく ると自分等は思つて所謂 故に鐵道法を以て其會社の成 鐵道の如きるのは殆ど國家の に毀損を生ずる事 國に せぬとも云はれぬと でも移る事になつ たならば宜らら た、 が無いと して資本 隣に境

定まつて居る以上は會社の許可を受けて居るもの 民と同じ義務を持つて居るのである、 人に持たせる事は うな氣遣をすると云ふのは頗る臆病干萬な話し だ夫は大なる株式會社を許可する時になら云ふや ますし政治家學者吾々實業界に居るものも種々討 ある決して夫程迄には懸念なざるには至らぬ事で る者の中には隨分有力なか方も 故に場合に依つては或會社の株は十分の七若く ツノ も外國に國籍のある人が持たんとは限らぬ 水ず したから折角跳 しました て外國人であ 純な論ではなか /鐵道抵當法と云ふるので通過する事に相 是に反して夫は杞憂である日本の法律 、議論は隨分諸新聞に大分出たやうに思ひ た に仕舞つて が、 但し其通過が跨むと同時に國有にな 已に鐵道に許して居るではない 結局は三十七年でありましたが つても何であつても日本の國 へて出來上つた着物は着る事 今日は丁度今の鐵道の株式 つたかも知 大分ありまし らぬが之を稱 株式を外國 6 0

云ふ場合に相成つて居る、 去りながら今申す通り其株券は今の金融の利息の て民業として達する事も出 場合を見るに至らずして希望者の希望も事實に於 して來るのであります、故に今の懸念説も懸念の 關係から海外人が頻りに悅で買び取ると云ふ有樣 を見ますると丁度吾々の希望したる事柄は一部分 國から輸入して來ると云ふのは之亦 希望は達し得られませぬけれども 宜いらしい又擔保と云ふ性質が 較致しますと其進みが甚だ遅い之と同様に あらうと思へます而して此方法には之を鐡道と比 はれつゝあ い故に是は今國有になりましたからして前に申す ますからして外國人の見附ける至極單純に解り 質に於て行はれつゝあると云ふ事を申して宜し と思ひます併し此鐵道杯に於ては誠に扱ひる仕 て公債證書にならうと云かるのを頻 白 ります叉工業會社も安い利息の金を外 い處の商品として類りに輸出すると 同時に内に資金が輸入 死ずして仕舞ひました 明かに分つて居り 事實に於ては行 りに海 進步で

方法に依つて英吉利であれ佛蘭西であれ刄獨逸亞 國に境が無くて有無がお互に水の流れる如く相通 じ得るものとするならばモウ一層も二層も簡便な 迄は進んで居るまいと思か、 でありますけれども事質相共通すると云ふ程度に **調社債の方法に依つて輸入して來る金と云ふもの** は蓋し極く四角な方法に依つて極まりは宜いやう 今申す鐡道なり工業なり 社は其やうな相談をしつゝあるやうであります、 と申さぬでも宜からと思ひます、 手堅く提供し得られる方法が立ちましたから若し 併し此事も が弦に未來に於て斯く有り度いと思ひますのは たならば金融の材料は單に鐵道のみに依るもの へば資本家に安心を與るやうな道が追々講せら が成立致しまして均しく夫に依つて財産が極く り立 の少いと云ふ事も意味する事と思はれます、 つ金利も比較的高 一寸鐵道と同じやらに工場法と云ふも しめると云ふ事に迄立ち至る が堅い手續きに依つて所 V 今前に申す經濟には 果して近頃或會

半と云ふ利率は市中銀行の利率よりは幾何 英吉利の金融界の有様杯は日常の取引は思ひの外 は必得ませぬからして弦に諸君に講釋が問敷く申 金利が安い現にバンク、オブ、イングランド う思ふのであります、自身を極く細かい扱ひ振り 私が前申したやうな融通法が生じは仕まいかとか 事業も擴張され信用も向上して行きましたならば ない幸に我商工業に從事する人ならば経々進んで 如何に隔て居ても相當に順序が立てば便利に違ひ **其媒介の道が無ければ至て不便になつて來るし又** べきものではない故に隣りの國に便利であつても けれども金融界の有様は決して一々其金を背負つ て歩くと云ふやうな取引が大きい交通法に有り得 ずる事は出來ないであらうと云ふ疑ひはあります 品物と思ひます成る程國 たる處のが互に一孤島であるからさら自由に相通 る其英吉利と日本を比べたならば殆ど東西相隔つ 分隔て居り交通も陸運ではいけない海を隔つて居 げる程の説は持つて居りませぬけれども蓋し から考へますと云かと大 の二分

ち其間に種々な闘門を通る此取引の間に幾何かの 安い 甚しきは倍以上の利息になつて日本に注入される 減りが立つ、 其間に種種な滅却する者があるからであります即 詰り己の商賣は上つたりである、 私は銀行者ですから餘り 假合今日金利は六歩になつたとて銀行者は夫で迷 を初めた時には大層安い金が一割二歩であつた明 さう云ふ事を云ふと御笑ひなさる、俳し私が銀行 惑すると云か事はない、 うな取り方であたが の為換が一圓に就て八十錢迄取つた餘り泥棒のや 多くなる若し三歩になつても矢張 國に向つても六歩も七歩も取られて居る夫は が通常の取引にある、 一來るのである、 年頃には高 弦で幾何かの手數料を取られる故に か譯であるかと云かと矢張り左様な いのが 今日から見れば可笑いけれ共 夫に一時私の銀行だけ 世の中の金融が安けれ 詰り夫だけの金融の扱ひ 一割五步、 されば日本で取引をす 知らない諸君は 然るに大阪迄

で、 利の場合に四歩で預けるよりも只で預つた者を三 うであるならば夫だけ取引が多くなる、三歩の金 歩になつたら之は堪りませぬが世間か 利益であらうと思ひます、 ると云か事にしたら宜からうと思か、 と云か事が詰り國の利益を増すと云か事になるの 歩で貸す方 金融をして共通せしむると云ふ譯であつたなら仕は即ち眞正の國益である而してどうしても此國の なり信用が鞏固になつて融通が良くなると云か事 の奴が幾何損をした乙の奴が勝つて徳をした一方 事が多くて資本が少ない處と仕事が少く資本が 利益とは云へない一般の融通が良くて金利が安く 如きは次に申した方で我が國の如 が徳をした時には一方は損をして居る是は真正の い處では金利は共通せねばならぬから彼の英佛の した方だと云ふ事は皆何誰も御是認なさる事と思 故に此海外の金融をして私が前に申す鐵道保護 銀行取引をする人を皆共に損をせず皆益をす が余程利益である、 取引所で相場をして 即はち利息の下る きるのは前に中 是が真正の しなべてさ 彭 甲

變に割合 然と其金利が安くなるから出 に其通法が成り立つたならば日本前途の金利を低 を持つて來れ なる會社であつて日本で借りるよりも倫敦の資本 無い這入つても其相談が 程の安心の出來る會社 居るや け方が甚だ微々として居る又其相談をする向は餘 追々に開けるかと思ます、 乍然外國の資本を日本の金融社界に輸入する途は 輸入する途は追々進めて行き度いと思ふ事 方の工業會社と夫から倫敦の銀行とが直接に引 ひる事 らであります俳 マア が高い 場抵當法と云ふやうな道許 ボッフ 中に一つ若くは二つの仲繼ぎを求め 來得るであらうかと思ひます、 ば良いと云ふ事になつて、弦に自然 が出來ると同時に叉仕事の上にも自 詰り出來ない相談になる是が相當 しとさう云ふ途が が成り立たぬ叉借りても大でなければ中に這入り手が し其割合 併し今日の處では此開 來得 が甚だ面白くない べき事業は多 うつで であ つて

其負擔の始末は未だ俄かに償ふ事は出來ませぬ せぬ、 を鞏固に 進めか 大戦役に際して國家は大變に海外より負擔をした ら許りであつて理財と云ふ方 變だと云ふやうな事 なもので夫は大に遣り損つた其駒を取られては大感念が無いと俗に申す待つた無しの將棊を指す樣 は値は下る叉日本の政府のする事が分ら とした五億の公債は問近に出 には相成 **々進むに就て其れに從事するものが飽く迄も信用** る 是は私共至極良い は公債が段々下つて參つて逐に鐵道を國有 マア獨り私が申すのは決して商賣界の上 てボ しと望んで居るのであります只其利用 があり此方でも銀行 してキ りませぬ、 ツノ ツチり約束通り仕事をすると云か \ さう云ふ方法が マア回顧しますと三十九年 では外國人との取引は出來ま 方法と思つて其仕 加。 出る、 あつて 7 からは網羅した言葉 **承る既に斯** 行はれ つて 來つて居 11/ 0 沙" ブ 沙> 燢 ~

7 君に向つで めねば不可ませぬ、其事を最も主張して其筋の諸 眼を附けて騒いで居る、 つも請求せずに己れの持つて居る公債さへ高くな して是から外國人をして限りない借財をして國家 れば宜い 公債さへ高くなれば宜いと云ふ譯ではなか ふ畿 に於ても段々御座いました、 殊に公債の整理をして外國に づ銀 ので資本家は始終尻込むやうな有様であ の批評も受けた事もあ 金融を良く 論は夫てそ新聞に演説に 改革をせねばならぬ改革をせねばならぬと すると云ふ考へではないと云ふ事を知ら 行業とし と云かやうな得手勝手な者共だ杯と云か 盡力し甚だしきは銀行者は公債許り の鐡道公債抔甚し 無いと云ふ事 せむとするには公債價格を高く ては金融が調理して行 外の事に就ては政府に ります、 きは七十圓になる 吾々も銀行家とし 又廟識に何 向つて信用 て是はどう 吾人 を回復 つたが つた の方 世 ~ ---

格を維持するかと云ふ事を個々に鐵道會 杞憂を抱い 一年ソ 是等の事は未 々出て其方法に就ては評議**も致**した譯であつて、 質に堪まらぬと云ひました の鐵道會社の人々杯の豫算は九十圓と立 つて來たです、 誠に慶賀すべき次第で御座 云ふ財政とか 着々事實に現はれ 整理すると 何下にでもなりはせぬ の公債價格 是から先き永久に金融を緩和せ ぬと云かので是は如 コノ 以上にもなつたのは頗る財政將來の爲に 其懸念を銀行者に謀つて銀行者も互に たに依つて前の内閣今度の内閣にも早 て置き八十 の間に政府 ださう歳月も經つて居りませぬ處が を恢復して其間に殆ど七十圓にもな 若くは鐵道經營と云ふ許りでなくし 10 十圓以上恢復して今日は先づ其時 て來る為でもありませらが是 圓にも切り込む、 が此政豊節約をして公債 かと云ふ者が八十圓にな います が堪まらぬと云ふ 斯くては 社も懸念 つた所 私はさら つて સ

取りも直さず名譽に對しては義務が生じ譽れに ありませう故に事業は伸びるに相違ないと思ふ らぬ事があるであらうと思ふのであります、 ならば日本の金融に對して未來は大いに面目を改 める事に立ち到るであらうと思ひます、 る金融の と深く思つて居るのであります、 に面目を更め吾々が其八歩九歩と云ふ利息に由 る左様相成つたならば決して<br />
日本の金融界は大 に就ては悅ぶと同時に私は矢張り むる事は出來ないで憂も共通せねばならぬ譯 ては謗り して更にさうなつた曉には如何であるかと云 て行くと云ふ事は或は期し難いと思ひますの 左様でありますが に媒介者が多分の費用の費へぬやうに は前に申しましたやうな事を追々に でも仕事 調和であれ商品を製造する方法であれ が起ると同じやうに危険は始終冤れ 加 出來ると云ふ事は必ず云ひ得る 其事柄が直ぐ目前に全然行は 時に悦びば 而して其真 懸念せ かりを共通 扨て希 せられ ねばな 如 护 6 何 Si 4

起す一 悲し 舞つたい の八月 起つた事で殊に是れに懲りて四十年の 奔した如くに騒い だ中庸を失ひまして其言動に對して大なる反動を と思はれ 一年の春にかけて殆ど水を打たやうに沈靜して が國民の通弊と云はねばならぬのです或場合に いに事業を更に困憊せしむる事がないとも限ら る双耐忍し得る覺悟を持たぬと只單に ば其前に於て俗に所謂平素の修練が基だ必要 も知らぬ今のやう が宜 るから海外に生ずる金融界の恐慌杯 きは羹に懲りて膾を吹いて居る人が澤山ある 寸短い 頃から四十 いと直機皆其處へ乗つて行くので其為に甚 蓋し進むに早いるのは又退くにる早 ます兎に角少し調子に乗ると云ふ事が我 を悅ぶのみに終つたならば或は其爲に大 本に酷 間の事ではありますれども三十九年 年の て居つた事抔は今申す調子か しくなり遂に夫が調和防禦し得 な時代に進んで参るとする 其處に到らし 一月迄に此經濟界が何 をから四さ と云ふ 一時の融通 V か B

懸念をする身柄になり度い今日は吾々は拮据經營 持ちになるのが た話である け金を儲けぬやうな注意をすると云ふのは馬鹿氣 は致しますけれども果して私が今申す理想が望み の通りに進むとしたならば夫で以て萬事足るか能 であるけれども未來の困苦を考へねばならぬ事で 畢るかと云ふに決してさうでない夫は益々仕合 に得る事ではありませぬからマ どうぞ其事を忘れ度くない から後の懸念は已むを得ぬとして先づ つた後は心配 だと云 ものであると思 つて 申さば金 ん成るた

云ふ事 洋行致しましたが其時分商業會議所の代長者とし でありまして年一年に進で參て既に三十五年私が りませぬが海外の資本を我が事業界に輸入すると ふのであります、 財學會に對して申上げる程の有益なものではあ 日本商業者の意志を海外に疏通する事は廣告的 方々へ出て談を致しました、 モウ私共殆ど商賣人となつて以來の希望 金が借りた いと云

業會議所に談をしたと云ふ事柄抔は今日に立ち到 引も今只一二の例としてしか申されませぬけれど 果して然らば今次に申しました商工業者の直接取 事ではない 其處に生えるので勉强し る迄の段階と思ふのであります、 と云ふてとであつた夫等も格別な効能も見えませ が段々に進で參つたとして見ると蓋し つて談をした譯ではない成るたけ事情を通じた ひます、果してさうすれば最初申した危険が矢張 も大いにさう云ふ事業は進んで來るであらうと思 ましてなう云か事柄は總べての人の間に死れ する弊害が生じまするが之は人間の弱點で御座 人は望みが足ると又次の望みが起きて又望みに 評を受けると云ふ世の中にならぬとる限りませぬ か馬鹿な事が出來たと云つて後に<br />
ごう云か事迄批 り互に生じて來てア、云ふ事を開い ども前申します鐵道法と云ひ今申す各國商 と云ふ事は考へられるやうに思ひます た事は決して無能に終る 其長い間に運び たからから云 蒔く種子が

申し述べた次第であります、(拍手) と色々な變化が起りますが夫等の顛末を御參考迄 のであります、 既往を繰り返して考へて見まする



あります。 が私の断定であります、 は甚だ違つて居るの の事 7 今 ニデ の後を辿つて御話して見たい に於て始めてい と云ふものゝ客觀的に成立したのは 其事に就て聊か歴史の大 あるのであらうと云かの る、否質を言ひますと、と と思ふの Ŀ

で と Ł. と言ひますると、 の上からして非常な進步と言はねばならぬ、 るに至つたのは即ちと ります、 ユーマニティ ニテ 増殖と見るのであります、 っつ の發展は交通の發達と云ふ事である、 くなつたと云ふ事を言ひたい は ニティ **僅かに五十人七十人を以て組織するもの** 5 Y ニティ ٦. からして今日十幾億に増加 世界が廣くなつた、 7 ーの發展の肝要な事項の一つは人 大體に於て二つの點があります ニティ は如何樣にして發展して居るか と言ひ ٦. 得べくんば、 の分量の増し 7 叉第二點として、人 ニティ のであります、 地理學上の世 の人 して組織す 其ヒユ た事であ 質を言ひ 、口の量 即ち

## 間 展

慶應義塾理財學會に於て

ヒュ 此ヒユ て、 は若し言ふ事を得べくんば、 **ふ事に就て、** て歴史あつて以來、 とユ 私は して一定不動なものであるか、 と云ふ事の觀念は學者に依つて殊に思想家に依つ でありまして、 る 言葉は我々は屢々聞くのであります、 稍々其意味を異にする者もありまするが、 7 ニティ 歴史の始よりヒユー マニティ マニティ マニティ の發展 少しく歴史上の事實を調べて見ると ・一其る 今日言ふ所のヒュ ーは非常な發展を遂げて居るので 全體今日までヒユマニテ と云ふ題を掲げました、是は即ち 一のデベロ 文學博士 一定不動のものであるかと云 のゝ客観に於ける實體は果し と云ふ事は歴史あつて以來果 7 左様なもの ニディ プメン 建部遯吾君述 と ユ. 7 トと云ふ意味 ニテ と云ふもの 7 併ながら ニティ 1 と云 Ł

స్ట్

精密なる事を言へば 界は其實古往今來少しる ある、是を喩へて言ひまするならば蜜 部は左程縮らないのでありますから、 のは約六十萬年にして一度の割合を以て冷却しつ はどう云ふ事でふるかと云ふと地球の熱度と云ふ 時に内から汁 ると云か事があります、 まる、現に地震と云ふるのがある、又火山の噴出す なれ、大きくはなつて居らぬのであ つあります、 を始めて來たと云ふに外ならぬのである、故に人 御互に往來 て居ると云ふ事は如何なる事であるかと云ふと、 に此時に於て否此地球の表面に於て人間が發展し 人間の占めて居る地面は廣くはならない、 出を經驗せしむる以上、 磐代山と云ふやうに日本に於ては近く火山の 凡そ熱が冷却するに隨つて、 杯が出る如き譯のものである、 御互に交通せざる所が次第に交通 世界は縮つたのである、 面には夫等人間の發展卽ち 是は表面が縮まるのに内 廣くはなりはせ 地球は實に小さくてそ ります、 相を押 噴出すので 今まで 物が縮 淺間 潰す